

聖ウルスラ学院英智報

ウルスラ 英智

vol.34 2013. 9. 1

特集 ことばの力



撮影地：一本杉キャンパス「法領塚古墳」



ごあいさつ

本学院に対し、日頃より多くの皆様のご支援とご協力をいただいておりますこと、心より感謝いたします。本学院の基本的な願いは、一人ひとりの子どもが個性的でしっかりした人間として成長し、広範な学力を着実な形で身に付ける（学力保障）と同時に、充実した幸せな人生を歩んでいけるための人間的な基礎づくりをする（成長保障）ということです。

本学院の建学の理念は、キリスト教的伝統にあります。ヘブライズム（ユダヤ教的伝統）とヘレニズム（古代ギリシア的伝統）を土台に発展してきたキリスト教は、現代社会において、神の前の平等と隣人愛、そして無私の精神を強調します。同時に、知性と理性の耕しを大事にします。

また本学院は、一本杉キャンパスが仙台伊達家の御屋敷の跡に立地するという由緒を大切にしています。仙台的地に花開き培われてきた豊かな伝統・文化を手掛かりとしつつ、我が国に古来積み重ねられてきた人間教育の精髓を、次の世代を担う子ども達に着実に身に付けさせたいと願っています。

私たちは、こうしたキリスト教と日本の精神文化という深い伝統に立ち、世の中のために働く力（＜我々の世界＞を生きる力）も、また自分自身に固有な内面世界に依拠して生きる力（＜我の世界＞を生きる力）も共に育つよう、日々の教育的取り組みに努めております。

このような本学院の教育のあり方について、どうかご理解いただき、倍旧の温かいご協力ご支援を賜りますよう、心からお願いいたします。

学校法人聖ウルスラ学院

理事長 梶田 毅 一

仙台伊達家第18代当主 伊達 泰宗様 本学院名誉顧問に就任



仙台伊達家は、本学院の教育事業に深いご理解と賛意を示されており、昭和27年、伊達家は旧伯爵邸跡地を本学院の敷地としてご提供されました。それを契機に、故伊達鞠子夫人（第18代御当主の御祖母）が本学院名誉顧問に就任され、本学院への支援と発展に寄与された歴史があります。以来60年余が経過しました。

本学院は日本の伝統文化を尊重する学習指導を実施しており、その一環として、本学院カリキュラムに「仙台藩作法」を導入しています。今年は、「仙台藩作法」導入から10年を経過した節目の年になりました。また、今年は400年前の伊達政宗公による支倉常長慶長遣欧使節の関係資料が、世界記憶遺産に登録されるという記念すべき年となりました。

過去が現在につながり、未来へ継承されていくという歴史の経緯を踏まえ、慶長遣欧使節400年を記念して本年の7月24日、仙台伊達家第18代当主伊達泰宗様が本学院名誉顧問に就任されましたので、お知らせと併せてご紹介します。

なお、伊達泰宗様には、本学院主要行事に度々ご出席され、本学院生徒への励ましや支援をされています。高校卒業式においては、仙台藩作法の「許状伝授」やご祝辞を賜る場などがありますが、名誉顧問ご就任により、今後は励ましやご支援の機会が多くなると思われます。

（文責：法人事務局長 高橋 直見）

伊達家旧伯爵邸跡地を標す石碑

（本学院一本杉キャンパス内）

平成24年3月、学校法人聖ウルスラ学院設立60周年を記念して、本学院一本杉キャンパスの聖堂に隣接して伊達家旧伯爵邸の跡地を標す石碑を設置しました。除幕式は、本学院梶田毅一理事長が伊達泰宗様をお迎えして挙行了しました。



教育の連続性の中で育むことばの力

ウルスラ英智の「ことばの学習」は、
幼少期から言葉を意識し、
高度な技術で鍛えられることにより
将来的に高等教育機関や社会で活かせる
強力なスキルに繋がっていきます。

小・中学校の取り組み

◆言語技術

言語技術科では、すべての学習の基盤となる「ことばの力」を育てるために、特別なカリキュラムを組んで授業を行っています。その最も基礎的な学習に「問答ゲーム」があります。このゲームには、質問に対して必ず結論→根拠→まとめの順に自分の考えを話すというルールがあります。どの学年でも、ゲーム感覚で楽しみながら、自分の考えを整理して論理的に答える訓練をしていくのです。ここで培われる力を土台とし、週1度の授業ではたくさんの絵や物語、資料等の情報と出会い、議論をしながら分析を進め、作文にまとめていく活動をしています。発展学習として、7年生は美術館にでかけて名画の分析も行っています。このようにして、自ら考え、理解し、表現するといった「ことばの力」を総合的に鍛えていくのが言語技術科の学習です。更には、この学びがすべての教科学習の学びをも進化させています。



1冊の本を丸ごと分析する丸本分析。教科書の何倍もの文章を読み込み、詳細を読み解いていきます。



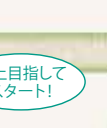
◆英語

1年生から週2時間、5年生から週3時間英語の授業があります。聞く、話す、読む、書くの4技能をまんべんなく学習します。そのうえで、将来英語圏の方々と自然にコミュニケーションをとることができるよう、英語で論理的に考える訓練を9年間を通して体系的に行います。



◆古典

1年生から古典に親しむ時間を設けています。まず瞑想から始まり、この瞑想で姿勢を整え集中力を高めます。そして、たくさんの漢字や短歌、詩や漢詩にふれることで子どもたちの学習への意欲がさらに高まります。昨年からは漢文検定に挑戦して力をつけています。



幼稚園の取り組み

人として、心豊かで楽しい社会生活を送るためには、豊かな表現力でのコミュニケーションが必要です。幼稚園では、感じたことを「ことば」や「音楽」、「絵画」などでのびのびと表現できるように、様々な環境づくりを行っています。



＜英語教育＞
外国人の先生から本物の英語を学んでいます



＜リトミック教育＞
リズムカルに身体を動かします。

では、どのような実践教育を経て 「ことばの力」が育まれているのでしょうか。

小・中学校での“ことばの学習”を活かした教育活動

ファースト

Fステージ (1～4年生)

図工の授業で

言語技術の時間に分析したゴッホの絵、「星月夜」。絵の表現技法を読み取り、図工の時間にオリジナルの星月夜を描きました。時間や場所、季節を考えながら描きました。



ファースト

Fステージ (1～4年生)

話し合い活動で



体育の授業での話し合いです。演技について、良いところや工夫したところ、直した方が良いところについて意見を出し合います。自分の意見を言うときには、主語が抜けたり、結論が抜けたりしない話し方を学習しました。自分の意見を言うにも、なぜそうなるのか？理由を述べて言えるようになってきました。

ファースト

Fステージ (1～4年生)

調べ学習で



調べ学習のまとめをしています。資料の作成や、発表の原稿を書くときなどは、何を、どんな順番で説明すればよいのか、子どもたち同士で話し合いながらまとめを進めています。

ファースト

Fステージ (1～4年生)

学習発表会で

1年間の英語の学習のまとめとして、Fステージは英語での学習発表会を行っています。4年生は英語劇に挑戦しました。



セカンド

Sステージ (5～7年生)

英語の発表で



Sステージは「英語スキット・歌唱コンテスト」を行います。英語の長い物語を暗唱するので、豊かに表現するために物語を深く分析・読解する必要があります。

セカンド

Sステージ (5～7年生)

国際交流で



日本の文化を英語で説明しています。文化の違いを意識して、聴衆を楽しませるプレゼンを考えます。



6年生はアメリカ人の学生たちと合宿をし、英語漬けの3日間を過ごします。1年生から学んできた英語が伝わるかの実践です。

セカンド

Sステージ (5～7年生)

国語の授業で

言語技術の時間だけではなく、国語の時間でも、文章の読み取りに言語技術のスキルを用いています。



セカンド

Sステージ (5～7年生)

美術館で

7年生は宮城県美術館で“本物の絵”の分析を行います。グループで十分に議論したあと分析文にまとめます。



特別展「ゴッホ展」では自画像に吸い込まれるように見入っていました。

サード

Tステージ (8～9年生)

語学研修で

9年間の英語の集大成としてオーストラリア・ケアンズでのホームステイを行います。日常生活のすべてを英語で過ごします。



サード

Tステージ (8～9年生)

話し合い活動で

委員会活動などの話し合いでは、意見を述べたり、まとめたりする時に言語技術のスキルを活用します。特に、Tステージ生は、話し合い活動のリーダーとして率先して活動しています。



【特別対談】

3歳児から18歳・青年期の育ち -言葉の力-

聖ウルスラ学院英智幼稚園
園長 佐取 美智子



聖ウルスラ学院英智
小・中学校 高等学校
校長 伊藤 宣子



【佐取園長】

3〜5才の子どもたちにとって、日常のことばを正しく使い、自分がして欲しいことを相手に伝えられるようになることは大切である。誕生会では、大きくなったら何になりたいか、全園児と保護者の前で自分の考えを話す機会を設けている。日常生活でも、自分の気持ちをきちんと言えるように、教師はいつも気をつけて子どもと接している。また、子どもたちが感じたことを、ことばや絵、表情などで、のびのびと表現できるような環境をつくることを忘れないようにしたい。

特色としてリトミックを行っているが、一番大切なのは、感じる心・感性である。花の表現をした時、子どもたちはのびのびと自由に動いていた。音楽であれ、ことばであれ、身体表現であれ、感じたことをスムーズに表現できるような子どもになってほしい。

このような感性を育みつつ、何でも吸収するこの時期に、社会生活の基礎となる「ことば」をもしっかりと身につけなければならない。そのためには、日常の会話の指導と共に、絵本の読み聞かせの大切さを感じている。

小学生の言語の授業を参観した際、どの児童も絵本の内容を理解し、思ったことを言葉で表していた。このような絵本を使い言語教育が行われていることを知り、幼稚園でもたくさんの絵本に接し、たくさんのことばと触れ合う大切さを感じた。

また今年度から、より充実した英語教育で、国際的な感覚が身につくようにしているが、そこでは、繰り返しの学びの大切さを痛感している。楽しくリズムカルな外国人の先生の指導、そして毎日、学習ツールを使い本物の英語に接する。この繰り返しが子どもたちに良い影響を与えている。

【伊藤校長】

地球で生きている生命体の中で人間が人間である所以は言葉を発すること。言葉と共に人間力をつけていくこと。教育の中心となる言葉の力をつけ、生きる力をつけていくことを大切にしたい。

人は生まれた時から言葉の中で育つ。人間が人間として豊かに生きていくためには、そういう意味で言葉が重要なのだということを、我々教育現場がどれほど感動の中で認識するかにかかっているのではないかと。

教育はスパイラル。教育の連続性。幼稚園課程の時に教わってきたものがどんどん内容を持ちながら発展していく。

読み聞かせは、する大人も聞く子どもも人間力を豊かにする教材である。

自分の考え方を言葉にのせて表現することができ、課題解決する力になるまでに子どもたちを教育していくことが必要。

「聞く、読む、話す、書く、分析力、思考力」を教育プランニングの中で教えないといけない。IT社会の中では指先思考力に変わってしまっている。若者たちの

人間の豊かさと感性の教育のためには、行間を読む、読み方の訓練をしなければならない。つぶやきの言葉だけではだめ。つぶやきの言葉の背景に人の心が見え隠れしているのを読み取る力を教育していかなければならない。

今、10代以降になるとだんだん沈黙の世界にかわってしまう傾向がある。学校教育現場の改革をしなければならない部分だろう。発言することでほかの発言も聞くことができる。重ね合わせることで課題解決に持っていくという手法も学んでいくだろう。幼稚園の3年間で全園児200人前で自分を表現できた子どもたちを大切にうけとって、自分を表現することのできるこの幼児期にもとづいた教育の連続性の中で若者を育てなければならない。

母語、日本語教育とともに、グローバル社会の中で国際共通語である英語をもっと使いこなせ、意見の交換ができる、議論ができる日本人に、グローバル人に教育していかなければならない。

母語と国際共通語を子どもたちの成長の臨界期を見出しながら教えていくことになる。

三つ子の魂百までといわれる基本ベースが3歳児にある。子どもたちの人間としてもつ基本は10歳に入る前の臨界期を検証しながら教えていくことで、10歳以降の伸びしろが大きくなる。それまでに基礎が形成される。やりなおすことはできない。その原石。3歳から磨かれはじめている教育の成果を途中でねむらせてしまうのか。どう磨きこなしていくかということ、10代、高3までの間にどう磨いていくかなのではないだろうか。

総合的に様々なことが分析・思考され、かつ認識し表現でき、その思考力を知性の育みとして育てていかなければならない。

創立者が「知性を磨きなさい」と話された。聖書の中にある「知は神の恵み」という論理を教育界に定着させた。話し言葉があっても、中身がなければ発展性がない。言葉として輝きを増すためには知性を磨くということをしなければならない。体験的に、体系的に系統的に知を磨いていくのは10代。いろいろなことを吸収する吸収力がものすごい。あつという間に覚えてしまう。覚えたことは記憶の中に持っている。この9歳までの間に豊かな感性の教育を育みたい。その後10代では抽象的・概念的・総合的思考力を育む教育の必要性がある。

幼稚園から教育の連続性を分析しながら教育改革をしていくことは未来の扉をあけてやるための大人たちの子どもへのプレゼントであり、大人の覚悟である。

品格のある人格形成の教育は現実検証能力と価値思考力を育むこと。このためにもそれぞれの学びの臨界期を大切にしたい学びの環境を与えて育むことが教育者の使命と認識したい。

高校では応用と技能向上へ

高等学校 小論文へのステップ

尚志コースでは、「総合学習」の時間に「小論文」対策を3年間継続して行っています。高3では個々に応じたマンツーマンの添削指導が中心です。その準備として、高1から高2までに「文章トレーニングノート」を利用して基礎基本の確認を行ったり「天声人語」の書き写し(語句調べや要約・感想も含めて)に取り組んだりして、知識や情報を収集し自分の意見や考えを持ち「書く」ことに慣れておくという積み重ねを行っています。



高等学校 ディベート

Type1では、1年生で「ディベート」を経験します。練習ディベートを経て、本番は、各クラスから予選を勝ち抜いてきたチームにより、決勝大会が開かれます。昨年の論題は「日本は18歳以上の国民に選挙権を認めるべきか」でした。この体験を通して、「論理的」とはどういうことか、聞き手を納得させるためには主張を支える根拠がいかに大事かを学びます。



高等学校 文化交流

JICA主催の高校生国際交流実体験プログラムに宮城県代表としてType2生徒2名が参加。スリランカ・インドネシアとボランティア交流をするという仮定でのアクションプランを作成し、東北各県の代表と競い合います。



本校生徒チームはインドネシアを選択し、現地修道院を中継地としながら現地高校と提携、それぞれの文化交流を図るというまめを行いました。

Enjoy English!

楽しみながら確実に身につく
新しい英語の学習がはじまりました。



創立当初から年長児を対象に行ってきた幼稚園の英語教育は、約70年の歴史があります。これまで多くの子どもたちが、この時間を通して外国の言葉や生活に触れてきました。その英語教育が、今年度からは全学年が学ぶ新しいプログラムに変わり、より子どもたちが英語に興味を持ち楽しく学べる内容になりました。

週1回、外国人の先生と学ぶ英語の時間には、先生の発音を大きな声で繰り返し、「Me, please!」と元気に手を上げる子どもたちの姿が見られます。明るくパワフルな先生に負けないくらい、やる気いっぱい、元気いっぱいの子どもたちです。覚えた単語や歌が日常生活でも聞かれるようになってきました。そして、先生と学んだ内容を毎日学習ツールを使用して繰り返し、次の英語の時間に繋げていきます。まだ始まったばかりですが、子どもたちの柔軟な耳や新しいことを吸収する力の大きさに驚く毎日です。



「英語って楽しい!」「英語大好き!」と喜んで英語の学習に取り組んでいます。
無理なく、楽しく、英語を学んでいます。

週1回のレッスン

外国人の先生と一緒に、楽しみながら英語に触れる時間を過ごします。



一人ひとりの発音を先生が確かめて教えてくれています。



「ENGLISHCLUB」として希望者には、課外教室を設けています。

日常生活の中で

「サイバードリーム」という学習ツールを使い、日常生活でも英語に親しんでいます。



大好きな英語の歌はあっという間に覚えてしまいます。



モニターの映像と一緒に発音を練習しています。



単語を覚えるとクイズにも挑戦します。



食育に取り組んでいます!

**おいしいな
たのしいな**

おいしいものを食べることはみんな大好き!
幼稚園では年に3回、
年長組が“おいしくてたのしいパーティ”を開きます。
「みんなで食べるとすごくおいしい!」
「花組さんありがとう!」
季節の食べ物に感謝すると同時に、
みんなで分かち合う喜びも味わうひとときです。

イチゴジャムパーティー ～イチゴの栽培を通して～

年長組（花組）が1年間大切に育てたイチゴを使っのジャム作り。小さな組の子どもたちも、イチゴが育つ様子を見ていたのでこの日をとても楽しみにしていました。自分たちで育てたものを調理して食べる楽しい経験です。

育てる



ていねいに草取り

収穫



真っ赤に実りました!

作る



ジャム作りに挑戦!

準備



パーティーの準備よ!

食べる



花組さんのジャム
おいしい!

(平成25年6月20日)

おイモパーティー ～芋掘り体験を通して～

秋になると年長組は、宮城県農業高等学校の芋畑で芋掘りを体験します。一生懸命、土を掘り、大きなお芋が出てくるとみんな大喜び! 育ててくれた人に感謝し、収穫の喜びと旬のおいしさを味わいます。

収穫



おいもはどこだ?



みつけた!

作る



アクぬきすると
おいしくなるんだ!



もうちょっと待っててね!

食べる



ほくほく!
あま〜い!

(平成24年10月12日)

カレーパーティー ～手作りはしあわせの味!～

みんなで野菜を持ち寄り、年長組が1日がかかりで作るトロトロのカレー。作っている時から、幼稚園中がカレーの香りでいっぱいになります。みんなで食べるとカレーのおいしさも倍増!そして、みんながおいしそうに食べている姿から、「食べてみよう!」という意欲が生まれ、苦手な野菜に挑戦する姿も見られます。

作る



にんじんはかたいな!



たまねぎ切ると
涙がでちゃうよ〜



お肉はいためるのよ!



私たちのカレー
さいこう!

(平成25年2月6日)

第31回 みやぎ児童画展

◆世界児童画展同時出展

小さなアトリエ
こども美術館

平成24年度

作品介绍

子どもらしい豊かな感性が表現された
ステキな作品ができました！

七夕まつり・うちわ

平成25年度7月作品



ひなまつり

平成24年度3月作品



【特選】「おかあさん」
佐々木 幸(年中/4才児)
※世界児童画展 / 入選



【特選】「おかあさん」
財前 光希(年中/4才児)
※世界児童画展 / 入選



【特選】
「すいか・ぶどう・
バナナはいかが？」
福山 百葉(年中/4才児)
※世界児童画展 / 入選



【入選】「いちごソフトはおいしかったよ」
大本 菜日南(年中/4才児)



【入選】「かぞく」
高橋 優歩(年長/5才児)



【入選】「かぞく」
菊池 さや子
(年長/5才児)

●「みやぎ児童画展」において、特別賞・特選の
受賞作品は「世界児童画展」に出品されます。

第72回 全国教育美術展

聖ウルスラ学院英智幼稚園

「教育委員会賞」受賞



【特選】
「大きなひまわりがさいたよ」
大本 菜央湊(年中/4才児)
※中央審査 / 特選



【特選】
「とんぼのようにゆうやけぞらをとんでいるぼく」
遠藤 蒼也(年長/5才児)
※中央審査 / 特選



【入選】「ねこちゃんまつり」
矢尾板 怜(年長/5才児)
※中央審査 / 特選



【入選】「いっぱいのとんぼと
いっしょにとびたいな」
奥村 光晟(年長/5才児)



【入選】「おとうさん」
佐藤 壮一郎(年中/4才児)

自治活動が本格始動

5・6・7年生が共につくるセカンドステージのクラブや、5～9年生でつくる委員会など、これまでにない「自治活動の場」がつけられています。委員会では、建設的な意見を出す5・6年生の姿や、その一方で様々な意見を受け止めながら整理していく上級生の姿が見られ、小・中学生が互いに刺激を受けています。1年生から9年生が集うこの「学舎」の自治をどのように考え、つくり上げていくのか互いを尊重し合う「場」となっています。今後の活動が期待されます。

児童生徒総会

予算の審議、活動計画の発表をします。ここから、今年度の児童生徒会がスタートします。

◎「信幸会」の由来

平成24年度の春に5年生～9年生での委員会活動を立ち上げるにあたって、名前は各クラスで話し合ったものを持ち寄りしました。HR委員会では話し合い、児童生徒総会で全体に発表しました。「信幸会」を提案したのはH24年度の291クラスです。「進行」していく活動でありたいという願いのもと、漢字を工夫して名前をつけたそうです。多くのHR委員がその考えに賛同しました。「信じる人は、幸いである。」と聖書にもあります。始まったばかりのこの活動がよき伝統となり、後輩達に引き継がれていく、そんな自治活動になることを願っています。



HR委員会委員長
兼「信幸会」会長



Type2 9年
佐藤 永虎

皆さん、ご機嫌さまでございます。

去年の9月から委員長、会長になり、もう半年以上が経ち、やっと委員会での活動に慣れてきましたが、自分の力の無さを実感しています。HR委員会は最初から「何をする」という決め事などは一切なく、委員会の初回では「まず何をするか」から始めていくので、話し合いにも一進一退が続く事が多々あります。月に一回の委員会の時間を有効に使うと努力することにも「やりがい」を感じるようになりました。

今は、信幸会主催でクラス対抗長なわ大会を企画しています。初めての取り組みですが、皆で団結し楽しめる行事になればよいと思います。

残りの任期、信幸会会長の名に相応しい仕事ができるとできるよう、活動時間を有効に使えるようにしたいです。

委員会活動の紹介

◆宗教委員会



ペットボトルのキャップを集めると、ワクチンを買うことができます。世界の子どものためにキャップの回収を全校に呼びかけています。

◆規律委員会



左：階段を安全に通行できるよう、中央にテープを貼ります。右側通行の徹底を呼び掛けます。右：携帯電話に関するアンケートを取りました。集計作業をしています。

◆掲示委員会



ステージごとの活動や、行事を掲示してお知らせします。カラフルな写真やイラストで、学校生活がよくわかるよう工夫します。

◆学力向上委員会

百ます計算をして、クラスごとにかかった時間を競います。集計をして全校に発表する準備をします。



委員会の掲示板。委員会ごとに、月の目標や活動内容をお知らせしています。

クラブ活動の紹介



◆和太鼓クラブ

ぶち合わせ太鼓の練習中です。きめポーズがそろいました。



◆バドミントンクラブ

シャトルにねらいを定めて・・・



◆将棋クラブ

先を読んで次の一手を考えます。勝つのはどちら？



◆音楽クラブ

ピアノに合わせて歌の練習です。綺麗な歌声を響かせます。



◆スキットクラブ

英語で寸劇をします。この回は、落語にチャレンジ。

他にも

◆軽スポーツクラブ

◆サッカークラブ

◆園芸クラブ

◆科学クラブなどがあり、それぞれに活動しています。

小・中学校の学び舎【3号館】校舎探訪

2011年の冬に完成した3号館。
1年生から9年生までが共に生活する場となりました。
新しい校舎でどのように生活し、
学んでいるのかをご紹介します。

＜英語室＞

豊富な教材が揃っています。常に英語に触れることにより、聞く、話す、読む、書くの4技能を効果的に修得していきます。



＜グリーン広場(小)＞

「見てみて! てっぺんにタッチできるよ!」と、登り棒や雲梯などの遊具で遊ぶみんなの元気な声が聞こえます。時には、ここで理科の観察もします。

◎児童コメント

登り棒やうんていであそんだり、かけっこをしたりします。



＜放送室＞

放送委員が担当する放送朝礼では、丁寧さと正確さを何よりも大事にしています。



＜LL教室＞

パソコンの使い方を学ぶ授業や、英語の学習で使う場所です。みんな熱中して取り組んでいます。

◎生徒コメント

パソコンで自分の調べたいことが調べられます。



＜音楽室＞

様々な集会で、児童・生徒が歌の伴奏を担当します。音楽室で練習に励んでいます。

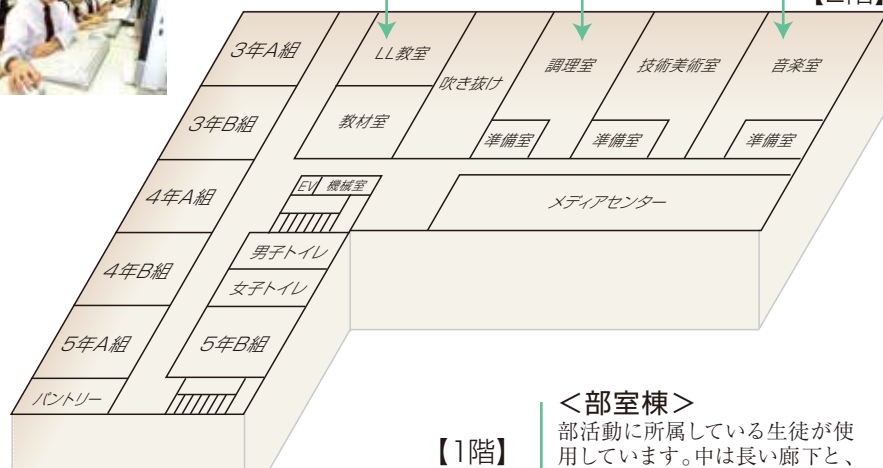


＜調理室＞

開放的で広いスペースの調理室では、5年生以上の児童・生徒が一生懸命調理実習を行います。



【2階】



＜部室棟＞

部活動に所属している生徒が使用しています。中は長い廊下と、それぞれの部室になっています。ここで、活動の準備を行います。

＜メディアセンター＞

言語技術の観点から選ばれた本が多く置かれています。朝、昼、放課後を利用し、本が好きな人がたくさんやっています。自主学習の場としても使用しています。

◎生徒コメント

静寂の中、自分ひとりで勉強や読書に熱中することができる場所です。

【1階】



＜法領塚古墳＞

「春夏秋冬」それぞれの顔をみせる法領塚がメディアセンターから一望できます。

◎児童コメント

自然や虫の観察ができます。古墳のまわりでは、一輪車で遊ぶことができます。

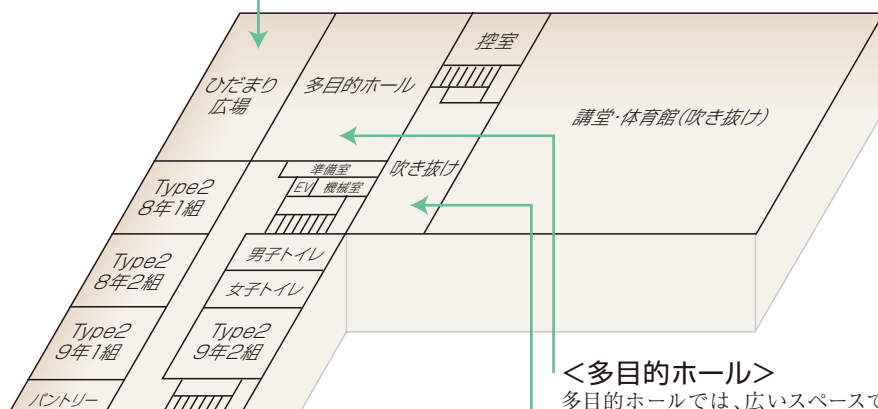


＜ひだまり広場＞

名前のとおり、とても日当たりが良いベランダです。ベンチが置かれているので、お弁当の日には「ひだまり広場で食べたい!」という声があちこちのクラスから聞こえてきます。



【4階】



＜多目的ホール＞

多目的ホールでは、広いスペースで学習ができます。学年集会や、そろばん教室が行われています。また、5年生の算数では立方体づくりが行われるなど、まさに多目的に活用されています。



＜吹き抜け＞

天井が高く、解放感があるので、休み時間は子どもたちの憩いの場となっています。



＜講堂・体育館＞

主に体育の授業や休み時間の遊び、学年集会や全校集会が行われます。ステージの奥に、青々としたけやきの樹が見えます。



＜各階教室＞

一日の大半を過ごす教室は、毎日の掃除もしっかりと丁寧に行い、大切に使っています。特に3階は、6～9年生という幅広い学年が共に生活をしているので、協力して気持ちよく使えるようにしています。

◎生徒コメント

みんなで協力し合いながら学べる場です。



＜グリーン広場(大)＞

みんなグリーン広場が大好きです。毎日、元気にサッカーをしています。体育の授業や休み時間は、ここで体を動かします。時には、高校生のお兄さん、お姉さんに遊んでもらうことも…

◎生徒コメント

体育の勉強をしたり、休み時間にみんなでサッカーをしたりします。



ステージ行事

ファースト

Fステージ運動会 1年～4年



3・4年生のすずめ踊りです。
最後のポーズが決まりました！

今年で2回目を迎えるファーストステージ運動会。また、今年からグラウンドが新しくなり始まる前から子どもたちの気分も大盛り上がりでした。運営では、昨年の4年生から引き継いで新3・4年生が中心となり、それぞれの仕事を果たしました。大きな声での放送や実況中継。応援合戦では、女子が応援団長となり力強い応援を見せてくれました。毎年、自分たちで作り上げる運動会を目標として行っていますが、今年も実り多い大成功の運動会となりました。

セカンド

Sステージ運動会 5年～7年



縦割りチーム対抗の徒競走、
誰が1位に！？



応援合戦。
どのチームが勝つでしょうか？

第2回目となるセカンドステージ運動会は、今年もシェルコム仙台で行われます。児童・生徒全員が縦割りチームをつくり東西に分かれます。今年は全員が参加する全員リレーや長縄とび、綱引き、よさこい、応援合戦などステージが一体となった運動会になります。実行委員会をつくり、運動会のテーマ決めや看板作り、放送や選手の招集、道具だしなど、児童・生徒が主体の運動会です。177名になることを持って踊るよさこいは、今年も運動会を大いに盛り上げます。

サード

Tステージ体育祭 8年～9年



高校生と直接対決！勝ったのは中学生でした。



リレーは1位でゴール！

8・9年生になると高校生との合同行事が登場しますが、そのひとつに「体育祭」があります。秋晴れの広い宮城野原陸上競技場で、先輩後輩もなく、思いっきり手足を振り回し全身をぶつけて戦い抜きました。瞬発力と団結力そして体重の軽さで優っている中学生が、どの種目でも好成績を残しました。最後の表彰式では中高ともお互いの健闘をたたえ、さわやかな拍手が競技場いっぱいにこだましていました。

荘厳な中で…クリスマス

ファースト

セカンド

Fステージ・Sステージ 1年～7年

本校のクリスマスは、待降節から始まります。約1か月間、イエス様をお迎えするために、一人一人が心の準備をするのです。そうして迎えたクリスマスお祝い会。今年は初めてファーストステージ1年生からセカンドステージ7年生が一堂に会して行われました。スライドでイエス様のご誕生を振り返った後、イエス様の光を私たちの中に迎え、待降節に準備したお捧げものを小さなイエス様にお捧げしてお祝い会を終えました。私たちの心においでくださったイエス様、ありがとうございます。



サード

Tステージ 8年～9年



救い主イエス・キリストのご降誕を祝うクリスマス。Tステージ8・9年生は、毎年高校生と共に祝いします。ファースト・セカンドまでの「クリスマスお祝い会」とは趣が異なり、8・9年生は厳粛な「ミサ」に参加することになります。このミサの中で私たちはイエス様がこの世に与えてくださった「愛と平和」について黙想し、特にこの世から「小さくされた人々」への愛と奉仕の大切さに気づく恵みをいただきました。感謝のミサの最後には恒例の「ハレルヤコーラス」が歌われ、生徒も教職員も心をひとつにした「クリスマス」でした。

8期生に続け! 学力・内面ともに鍛える9期生!!

昨年度卒業した第8期生は、内部生は4年間、外部生は3年間Type1コースの生活を過ごしました。生徒がどれほど大きな可能性を秘めているかということを実感させてくれた生徒たちでした。

Type1生として毎日9時間の濃密な授業を受け、多くの課題をこなし、勉強合宿では心身を鍛えました。もちろん、ただ勉強していれば学力が上がるわけではありません。何より大事なことは日々の生活の中で、他人への思いやりや協調性を身につけること、物の整理整頓や掃除の仕方など生活力を身につけることです。これら内面的な成長を見せた生徒は、それに比例して学力も身につけていきました。Type1では、受験は個人戦であると同時に団体戦であることも体験できます。個人でこつこつ学ぶことは当然として、お互いに分からないことを教えあったり、学年全体として誇るべき模試の結果を残すべく健闘したり、苦しいときや悩んだときは支えあい、そして、互いの健闘を折りつつ受験を迎えます。

教員も生徒の頑張りに応えるべく、コース長はコース全体を牽引し、担任は生徒の揺れ動く気持ちを把握すべく何度も二者面談と三者面談を繰り返し、教科担当の先生方は各々の専門的な知識を全力で生徒に注ぎ込みます。生徒たちは、コースに入った当初とは別人のようにたくましく、賢く育ち、コース長の言葉でもある「自分の夢や希望は自分でつかみとれ!」を実践することが出来ました。その結果、在籍55名中42名が国公立大学に合格（うち6名東北大学合格）という驚異的な合格率と同時に、ほぼ全員が第1志望に進学するという進路実績を残しました。

Type1で行われているのは、目先の大学受験を考えた小手先の教育ではなく、生徒の一生を通じた長期的な視野で、この生徒にはどのような指導が最善であるかを考え、実践していきます。

素晴らしい実績を残してくれた先輩に続いていけるように、在校生も毎日、勉強に課題に勤しんでいます。夏にはType1の行事の中でも、生徒たちの様々な力が試される「夏期勉強合宿」と「野外活動」がありました。それらの行事を乗り越え、たくましく成長した3年生（9期生）は、大学入試本番に向け、クラス一丸となって、最後の追い込みをかけています。

＜第8期生 55名 合格実績＞

●国公立大学

大学名	学部	人数
東北大学	文	1
	経済	1
	理	1
	工	2
	医・保健	1
弘前大学	人文	1
岩手大学	人文社会科学	2
	教育	1
宮城教育大学	教育	4
秋田大学	教育文化	1
	工学資源	2
山形大学	人文社会	1
	工	2
福島大学	人文社会学群	2
茨城大学	工	1
埼玉大学	経済	4
	理	1
	工	1
上越教育大学	学校教育	1
新潟大学	経済	1
信州大学	経済	1
北陸工業大学	工	1
富山大学	都市教養	2
首都大学東京	看護	2
宮城大学	事業構想	1
	医療薬学	1
		42名

●私立大学

大学名	学部	人数
早稲田大学	文	1
慶應義塾大学	薬	1
東京理科大学	理工	5
	経済	1
	経営	7
中央大学	文	5
	経済	8
	商	1
	理工	4
明治大学	政治経済	3
	農	3
	理工	3
立教大学	経済	1
	理	1
青山学院大学	経済	1
	理工	1
法政大学	文	3
	経済	8
立命館大学	政策科学	1
	経済	1
國學院大学	法	2
	文	5
	理	15
	人間開発	2
成城大学	法	2
	文芸	2
神奈川大学	法	1
	外国語	1
	経済	3
	人間科学	1
	理	1
	工	2
日本大学	法	3
	経済	2
	文理	3
	理工	3
	薬	1
	松戸歯	1

(私立大学つづき)

大学名	学部	人数
東洋大学	文	3
	経済	6
	経営	1
	生命科学	1
駒澤大学	法	1
専修大学	文	1
	経済	2
	経営	2
専修大学	人間科学	3
	ネットワーク情報	1
目白大学	人間	1
	社会	1
大正大学	文	2
立正大学	心理	1
東北学院大学	法	6
	文	6
	経済	12
	数経	11
	工	8
宮城学院女子大学	学芸	2
	学芸	2
仙台白百合女子大学	人間	2
尚網学院大学	総合人間	3
東北福祉大学	総合福祉	4
	総合マネジメント	1
	健康科学	3
石巻専修大学	理工	2
東北薬科大学	薬	1
東京薬科大学	生命科学	1
横浜薬科大学	薬	1
北海道医療大学	薬	2
北海学園大学	経営	1
秋田看護福祉大学	看護福祉	1
白海大学	教育	1
麗谷大学	理工	1
東京女子大学	現代教養	1
津田塾大学	学芸	3
日本女子大学	人間社会	1
昭和女子大学	人間社会	1
実践女子大学	人間文化	1
	文	1
	人間社会	1
	生活科	1
大妻女子大学	人間関係	2
	社会情報	1
東京農業大学	農	2
芝浦工業大学	システム理工	10
	デザイン	5
東京電機大学	未来科学	2
	理工	1
	工	1
	情報環境	1
東京都市大学	工	1
工学院大学	工	2
千葉工業大学	工	1
		248名

●その他

学校名	学部	人数
防衛大学校	人文社会	1
	理工	4
防衛医科大学校高等看護学院		5
海上保安大学校		2
海上保安学校		8
海上自衛隊看護学生		1
仙台医療センター看護助産学校		4
仙台徳州看護専門学校		3
石巻赤十字看護専門学校		1
岩手看護専門学校		1
花巻看護専門学校		1
		31名

卒業生からのメッセージ

平成20年度卒業生

熱海 龍太郎さん（東北大学 教育学部 卒業）

私は高校の3年間で特別志学コースType1の生徒として過ごした。卒業して4年が経ち、私は高校生の持つ密度の濃い時間を羨ましく思う。常に目標があり、それに向かって何かを燃やし続けるような日々だったと感じるからだ。

今私は社会人1年目の日々を過ごしているが、気が付けば1日、1週間、1か月が終わり、自分はこの期間で何をしたのだろうか、と考えてしまうことがある。そんなときに思い出すのは高校時

代のことである。確かに勉強は厳しかった。卒業したときに「解放感」を感じたのも事実である。しかし今の私は、1日1日を無駄にできず、毎日が何かしらの生産性に満ちていたあの頃に戻りたいと思うのである。

現在ウルスの生徒としての生活を送っている後輩たちには、小さなことでもいいので何か目標を作り、そこに向かって全力で毎日を送ってもらいたい。そうすれば「あの頃に戻りたい!」と数年後に思えるような、素敵な日々を送れることと思う。

Watch◆特志Type1の魅力に迫る!

『沈黙』（遠藤周作）への旅 ～特志Type1の長崎研修旅行～

特別志学コースType1では、高校2年の冬に、長崎に3泊4日の研修旅行に行きます。その事前活動の一環として、長崎が舞台となっている遠藤周作の代表作『沈黙』を読み、あらすじや、主題を考えるとともに、アニメーションという言語活動を行っています。カトリック信徒であった遠藤周作は、自ら大変苦しみながらこの作品を書いたと思われますが、読み手である生徒も正反対の感想や考えをもちます。そこでアニメーションの方法の一つである「アングルを変えて」（作戦21）を使用し、自由に自分の意見を表明します。例えば、ある年は「ロドリゴ=主人公の棄教は敗北か」という問いを巡って自由に意見が交換されました。（アニメーションには、全部で75の作戦があり、ゲーム感覚で自由に読みながら、分析力・解釈力をつけていくという

手法です。）

『沈黙』の主人公で、敬虔なカトリック司祭であったロドリゴが悩み、心身共に苦しみ抜いた果てに棄教する、という物語を通し、神とは…、信仰とは…、といった根源的な思索や意見交換をすることによって、本校の教育理念である、キリスト教的人間観についての理解を深めます。また、研修旅行では、『沈黙』の舞台であり、史実でも隠れキリシタンの住処となった長崎市外海地区や、遠藤周作記念館を実際に訪れることで、もう一度作品世界がありありと頭の中で甦ります。Type1の研修旅行は、このような事前学習を通し、カトリックのルーツを訪ねる大変意義深いものとなっています。



部活動両立型特志Type2 ～7期生を迎えて～

本コースは、学業と部活動・校外活動の両立をサポートし、豊かな人間教育を志向したコースです。今年は7期生として79名の新入生を迎えることができました。学校生活では休み時間、授業後や放課後等に質問に来る生徒も多く、部活動も所属率が80%を超え、校舎全体がいつも活発な雰囲気に満たされています。そして今年の春は、約100名の4期生がそれぞれの夢をかなえ学び舎を巣立っていきました。特に今年の卒業生からは学年の人数が多くなり、進学先も多岐にわたりました。中でも国公立大学には16名が合格し、そして早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学といった関東難関私立大学への進学者も出ました。先輩たちの培ってきた伝統を引き継ぎながら、進学面でもしっかりと実績をあげ、コース全体として勢いに乗っている、そんな感じがあります（進学先参照）。

また、本コースでは設立当初から特色教育として「朝課外」、「東北福祉大学との高大連携授業」、「フランス語」等を取り入れていますが、これらに加えて、今年も生徒たちが仲間を募り、先生の空き時間に演習授業をお願いするという「自主課外」が夏休みに行われ、生徒たちが自ら学校生活をより良く作り上げようとする姿が見られました。



第7期生

◆ 4期生の主な合格実績

お茶の水女子大学、東京学芸大学、山形大学、岩手大学、琉球大学、宮城教育大学、宮城大学、上智大学、早稲田大学、慶應義塾大学、青山学院大学、立命館大学、法政大学、中央大学、明治大学、立教大学、東京理科大学、東北福祉大学、東北学院大学、東北薬科大学等

勉強と部活動の両立についての現状とこれからの抱負



6期生 2年
藤原 直樹

Type2生としてこの学校に入学してから1年3ヶ月が経ちました。もともとType2コースには、「勉強と部活動の両立」という面で入学を志願していました。1年生の頃は、それに関して達成感を持っていました。勉強においては、基本は大体押さえることが出来たし、所属している吹奏楽部では、色々な人と関わり合いながら自己の楽器の技術の向上に努めることができました。

しかし、2年生になってから特に勉強において授業のスピードが速く内容も難しくなってきたことによって、勉強量を増やし、質を高める必要性を感じ始めています。これからは自分の学習状況を見直し、進路に向けて一層勉強に励み、また部活動にも取り組んでいこうと思います。



Watch◆特志Type2の魅力に迫る!

高大連携授業と法政大学・中央大学の進学説明会

特別志学コースType2では、高校1・2年生の総合学習の時間に高大連携授業を取り入れています。これは、東北福祉大学からの協力をいただき、実際に大学へ伺って授業を受けるというものです。高校1年次の冬の企画では、小グループに分かれ、ゼミ形式での活動があります。そこでは、プレゼンテーションや発表など、大学生と同じような学びが体験できます。

また、今年度は7月9日に新しい企画として法政大学・中央大学の2大学に来校してもらい、Type2コースの高校2・3年生対象の説明会を開いていただきました。関東の総合大学の説明を聞くことで、自分の志望分野を広げることができました。

このコースでは、高校生の時から大学を身近に体感することができます。そして、これらの行事や授業で、進学意欲や学習意欲を高めていきます。

◎東北福祉大学での高大連携授業



◎法政大・中央大 進学説明会



毎週火曜日、コース集会やってます！

「志を尚く（たかく）する」ことを目指したコースである「尚志コース」では、コース全体・学年全体での行事や学習の機会が多いことがコースの特色となっており、ひとつの集団としての一体感を持ちながら成長していくチャンスが豊富です。中でも、毎週火曜日には「尚志コース集会」を開き、週に一度はコース全員が一堂に会する機会を設けています。コース生の集団訓練の場、コース生全体の共有・共感の場として平成18年度にはじめられたこの集会も、今年で8年目を迎えており、毎年、年に30回程度の集会を開いています。週に1回、身だしなみを整え正装で集まり、その時々での行事や取り組むべき課題などについて共有し合ったり、各分野で活躍している生徒たちがコース全体に活動の報告をしたり呼びかけを行ったりしています。特に、近年では、生徒が壇上に上がって話す場面を多く設けるように心掛けており、新学習指導要領において改善の柱として位置付けられた「言語活動の充実」のためにも、生徒に十分な機会を与えるものとなっています。この集会も、今ではコースの運営において、なくてはならないものになっています。

◎7月2日に行われた「尚志コース集会」
この日は、約1年間のカナダ留学から帰国した山内さんから帰国報告が行われました。



ビヨンドトゥモロー 「東北未来リーダーズサミット」に参加して

3年 佐々木 恵



私の地元である石巻市は、東日本大震災によって津波による甚大な被害を受けた。震災から2年経った今でもあまり復興は進んではいない。石巻はもう震災前のような賑わいが戻ってはこないのだろうか、とっていた矢先、「ビヨンドトゥモロー東北未来リーダーズサミット」が開かれることを知り、参加してみることにした。それは、同じ3月11日に被災し、被災地を復興させたいという意志を持つ東北地区の学生が一堂に集まり、東北の未来を考えていく会議である。震災を生き残った者として広い世界、社会に思いを馳せ、東北の未来を創る強い心を持ったリーダーとして成長するという、会議の趣旨を心に留め、3日間東北の未来について話し合った。この会議では、被災体験を共有することを通して、一つの地域だけでなく日本全体が復興に目を向け、防災意識を高めることで安全な街づくりをしていくことが必要だということ話を合した。3日間の会議を通して、私は未来を担う若者として、これからどんな行動を取っていくべきなのかを改めて考えさせられた。新しい石巻を創り出していくために、リーダーの一人として力を発揮していきたい。



ビヨンドトゥモロー東北未来リーダーズサミット2012

Watch◆尚志の魅力に迫る！

仙台藩作法11年目を迎えて

仙台藩作法指南役 池田 峯公

ご機嫌様でございます。毎日この挨拶を互いに交わす時、自然と笑顔になることができ、礼儀を大切にしているウルスラ英智らしさを感じます。昨年頃より、かつての教え子が先生として母校に帰り教壇に立つ姿を見るようになりました。私も随分と長くこちらにお世話になっているなとしみじみ思っているところです。

真の国際人として、日本の伝統文化と礼儀正しさを尊重する学院の取り組みは、10年前から本格的に始まりました。次代を担う若者には特に必須の教養です。起居動作から季節の営みや郷土の歴史文化まで、限られた時間の中でできる限り多くの内容を盛り込もうと日々格闘しております。3年間では約100時間にもなりますが、礼法の行動原則は他人を思いやり、他人のため自らを慎むことで、笑顔いっぱいの元氣な挨拶から始まるものです。作法で学んだことが、将来のさ

◎6月26日に行われた仙台藩作法宗家・伊達家ご当主による特別講義の様子



まざまな経験の中で必ずいかされていくようにとの希望をもって、これからも厳しい姿勢で生徒とともに学んでいきたいと思っています。

剣道部

感謝を胸に

特志Type2 3年 矢田 明葉

私たち、剣道部は部員みんな仲が良く、毎日楽しく熱心に活動に励んでいます。日々の練習では個人・団体共に力をつけることを目指し、互いに切磋琢磨しながら真面目に取り組んでいます。そして最近では男子部員の数も増え活動の雰囲気さらに活気づいています。

そんな私たち剣道部には目標が2つあります。1つ目は大会で一戦でも多く勝つことです。目標実現のため一人一人が自分の課題に向き合い克服するよう練習に取り組んでいます。

2つ目は感謝の気持ちを忘れないことです。部活は同じ目標に向かって一緒に努力する仲間がいて、いつも私たちのことを気にかけて下さる顧問の先生方、応援し協力してくれる両親等の支えがあり成り立っているのだと思います。だからこそこれからも感謝することを忘れず一生懸命頑張っていきたいと思っています。



JRC部

JRC部とはなんでしょう？ ～私を平和の道具にしてください～

正門脇のバス停の花壇にある、「JRC部」の看板。これって何を

している部かご存知ですか？

JRCはJuniorRedCrossの略称で、赤十字の精神にのってボランティアをする部活動です。私たちの活動は普段あまり目に入らないかもしれませんが、実は盲導犬募金やあしなが育英募金などの街頭募金、社会福祉協議会などの行事のボランティアスタッフ、地域清掃など、求められればどこへでも。校外での各種ボランティアに参加しているんですよ。また、校内でも、平和七夕への参加呼びかけ、英智祭ではフェアトレード商品のチャリティーマーケット・展示を行っています。震災以後、部員が増えました。

これからも、「主よ、私を平和の道具にしてください」という聖フランシスコの祈りを胸に、活動を続けていきたいと思っています。



書道部

第14回 書道部書道展 開催 ～テーマ「夢」～

会期 / 8月8日(木)～13日(火)

会場 / 藤崎本館 7 階 催事場

慶長遣欧使節400年を迎える今、未来に発進し

たく制作に取り組みました。

期間中ご来場いただきました1,814名のお客様、及び、開催にあたりご協力を賜りました多くの皆様に、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



【会場装花】華道部協力

合唱部

心に響く歌を歌う！

合唱部のモットーは「心に響く歌を歌う」です。毎日基礎練習を大切に、人々に感動を与え

られる演奏を目指し頑張っています。宗教行事では祈りの心で聖歌を歌い、コンクールにおいては力を客観評価して頂き、定期演奏会では様々なジャンルの曲を歌い合唱の素晴らしさを追求しています。昨年は学外演奏活動に積極的に挑戦し、定演ではディズニーミュージカルを上演し好評を博しました。また、NHK音楽コンクールでは、県大会金賞・東北大会銅賞を、最も力を入れて頑張った全日本合唱コンクール《朝日新聞主催》において、県大会金賞・第1位（県知事賞）、東北大会金賞（創部初）を頂きました。惜しくも全国大会代表になれなかったですが、今年度は初心にかえて練習に励み、新たなチャレンジに向け部員一同努力しています。合唱部の演奏が人々の感動につながることを信じてつづ。



文芸同好会

第3回 Y S 賞受賞！

YS賞は、20歳未満の青少年の詩作に対する意欲を高揚するために、詩人の故佐藤幸雄氏にちなんで宮城県詩人会が設置した賞です。この度、特志Type2 3年の嶺岸ゆりえさんがみごと受賞しました。

記憶3.11
どこか
違う世界に生きているような
色のない目では ことばを
ひんやりとした まわりの空気と
いきている という証を残した体温が
私に生きている時間を数えて
形にならない記憶が浮かぶ
どこにいないの？
聞こえないの？
どこにいくの？
「終わるまで」
逆向きに動く針の音と
きみではない声が聞こえた
考えないというものを考えているわたしは
考える というものの隣にいますのだから
太陽が出てくる夜には
みえない ことばが
涙を連れてくるのです
わたしと
記憶と
一緒に生きているなんて
言えるはずがないけれど
最後の言葉は
最後の記憶を語るでしょう



授賞式の様子



バドミントン部

中学・高校でそれぞれ男女揃って全国大会で結果を出すことができました。
 たくさんのご声援、ありがとうございました。

平成25年度

第64回全国高等学校バドミントン選手権大会 <8月6日～11日 北九州市>

女子

◆女子 団体 第3位



[主 将] 鳴海愛結果 (3年)
 飯島 真依 (3年) 塚本あゆみ (3年) 重山 智佳 (3年)
 後藤 にこ (3年) 小林茉利奈 (3年) 甲斐妃美子 (2年)
 [マネージャー] 曾根 里紗 (3年)

インターハイを終えて

高校女子 主将 鳴海 愛結果

私たち女子バドミントン部は、全国大会で数多く入賞している歴史のある部活動です。今年は団体優勝という目標の下、仲間たちと切磋琢磨し練習に励んできました。8月に北九州市で行われたインターハイの団体戦では、とても厳しい組み合わせの中、チーム一丸となって戦い、3位という結果を残しました。目標である優勝を成し遂げることはできませんでしたが、校長先生をはじめ、先生方、保護者の皆様、そして顧問の先生方の支えがあったからこそ、仲間の大切さを学ぶことができました。これからも感謝の気持ちを忘れずに後輩の指導に努めたいと思います。ご声援ありがとうございました。

男子

◆男子 団体 ベスト16



[主 将] 浅原利希哉 (3年)
 高橋 歩夢 (2年) 菅原 栄史 (2年) 篠崎 孝浩 (2年)
 野村 拓海 (1年) 浅原 大輔 (1年) 丸山 優斗 (1年)
 [マネージャー] 佐藤 翔 (2年)

高校男子 主将 浅原 利希哉

僕たち男子バドミントン部の目標は全国大会で優勝することです。そのためにも日々の練習に励んでいます。時には逃げ出したくなるくらい厳しい時もありますが、仲間と励まし合いながら頑張っています。今年のインターハイはベスト16という結果に終わってしまい、もっと自分たちの力が出せたのではないかと悔しい気持ちでいます。これからも、日頃から支えてくれている先生方、保護者の皆様への感謝を忘れずに、優勝目指して頑張っていきます。応援ありがとうございました。

女子

平成25年度
 第34回東北中学校バドミントン大会
 <8月3日～5日 仙台市>

◆女子 団体 第1位

第43回全国中学校バドミントン大会
 <8月17日～20日 静岡県富士宮市>

◆女子 団体 第3位



[主 将] 大関 令奈 (9年)
 徳能あすか (9年) 長町 夏実 (9年) 繁田 みほ (9年)
 小原凜々子 (9年) 保原 彩夏 (9年) 鈴木ゆうき (8年)

男子

平成25年度
 第34回東北中学校バドミントン大会
 <8月3日～5日 仙台市>

◆男子 団体 第3位

第43回全国中学校バドミントン大会
 <8月17日～20日 静岡県富士宮市>

◆男子 団体 ベスト16



[主 将] 荻澤 智樹 (9年)
 菅原 理史 (9年) 日野 滋斗 (8年) 嶺岸 洸 (8年)
 寺島 颯大 (7年) 齋藤 晃輝 (7年) 佐藤 孝伸 (7年)

インターハイ出場おめでとう！

空手道 [形]

大塚 絢音 (尚志コース 3年)

◎インターハイ出場に際し、ご支援いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

同窓会だより

幼稚園

＜集まりの日＞

幼稚園の「集まりの日」は今年で17回を迎えました。

「6年生になったら、また会おうね!」と卒園していった子どもたちは、この日をとても楽しみにまつており、今年もたくさんの卒園生と再会することができました。

6年前小さかった子どもたちも、みんな立派に成長し、担任より大きくなっている子もあり、少し大人っぽさも感じられるほどでした。でも笑顔はそのまま、懐かしい友達や教師とすぐにうちとけ合い、みんなでゲームをしたり、思い出話をしたりと、楽しいひと時を過ごしました。

今年度は、2月1日(土)に行う予定です。



平成18年度卒業の子どもたち69名が各地から集まりました。
(写真は花1組の皆さん)

高等学校

今年度の総会は5月18日に行われました。今年は、子供が母校に在学中の方の出席がとても多かったように思われました。懇親会で、第一校歌はいつもと変わらぬ調で、そして第二校歌(平成17年から)を歌う声も以前に増して揃うようになりました。若い卒業生、昔若かった卒業生皆で声を合わせて第一、第二校歌を歌ったことがとても印象的なそして温かい今年の懇親会の一シーンでした。

本年は、9月に「バザー」、11月に「帰天された恩師と同窓生のための追悼ミサ」を予定しています。

会長 今野 麻里

卒業生からのメッセージ

放課後子ども教室

『わいわいパーク黒松』代表
学校支援地域本部スーパーバイザー

高等学校 16年生

今野久美子さん



「くみ子先生は若竹のような方ですね。雪の重みに大きく首(こうべ)を垂れるけれど、いつの間にかピンと雪をはね除けまっすぐに立つのよね」幼稚園を退職の折、教頭先生から頂戴した言葉である。初代校長スザンナ・マルテン先生の「竹のごとく」の言葉が心に甦った。私自身の根源は、やはりウルスラ生として過ごした3年間にあるのではないかと、その時はっきりと意識した。

雑巾を持つ手もおそろかに、おしゃべりに花を咲かせる17歳、通りかかったシスターは「誰も見ていなくても神様はいつも見ていて下さるのよ」とおっしゃった。叱られるよりドキッとした。一日がかりで「ブラザー サン・シスタームーン」や「カラマゾフの兄弟」の映画を見て、思うことを語り合った修養会。「大統領、国会議員どんな人も女から生まれた、女性が賢く強くならないと世の中は良くならない」こんな言葉もこの頃に聞いたのだと思う。多感な年頃で悩みも多かった。善と悪、感謝、奉仕、生と死、優しさ、愛、人と真摯に向き合う、自ら行うこと、自分の目で見て頭で考えることなど、学業と共に多くを学び・出会いがあった。一つひとつのことに真正面から向き合った高校生活は、人としての根幹や心を耕した「かけがえのない時間」であった。聖ウルスラ学院、先生方、友に心から感謝している。

現在、私は仙台市の委託事業、放課後子ども教室『わいわいパーク黒松』の代表、学校支援地域本部スーパーバイザーとして勤務している。自分のスキルや想いを生かせるボランティアとして立ち上げた教室は、今や私のライフワークとなった。年間延べ4,500名以上の子どもと大人が、授業や放課後、休日に生き生きと活動している。毎日集まってくる子どもや人々の思いを受け止め、子ども同士、子どもと大人を繋ぐ仕事に、私自身が大きな喜びを感じている。今後も子どもたちや地域のために、子どもの居場所作り、子育て支援、学校支援という実践を、仲間と共に笑顔で積み重ねていきたい。

【平成24年12月3日】

平成24年度優れた「地域による学校支援活動」

推進にかかる文部科学大臣表彰

【平成25年2月8日】

平成24年度仙台市教育委員会教育功績者表彰(一般教育部門 団体)

募金委員会より

聖ウルスラ学院英智 キャンパス統合小・中学校 高等学校 校舎一体化事業

募金期間がいよいよ残り約半年となりました。引き続き、皆様からの格別のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募金要項

募金目標額 ▶ 1億円

募金期間 ▶ 平成26年3月まで

寄付金額 ▶ 1口 1万円(分割可)

寄付申込方法 ▶ (1) 寄付申込書に必要事項を記入の上、聖ウルスラ学院英智事務室に申込んでください。

(2) 専用の振替(振込み)用紙を利用の場合は、寄付申込書は不要です。

払込方法 ▶ 専用の振替(振込み)用紙を利用し、郵便振替、銀行口座いずれかで振込みをしてください。または事務室に直接持参してください。

寄付申込先 ▶ 学校法人 聖ウルスラ学院事務室内 募金委員会 TEL.022-286-5935

寄付金の ▶ 本学院への寄付は税金の減免を受けられるよう、

免税措置 ▶ 「特定公益増進法人」としての認可を受けております。また、日本私学振興・共済事業団の「受配者指定寄付金」制度を利用し、法人寄付金の損金算入をはかります。

Piano Violin



生徒募集中

どなたでも随時入室できます。

聖ウルスラ学院英智音楽教室 ～豊かな心を育む音楽を～

聖ウルスラ学院英智音楽教室は140名の生徒と共に新年度を迎えることができました。日頃より多くの皆さまのご支援とご協力の賜物と、心より感謝申し上げます。

当教室は創設66年、聖アンジェラの精神に導かれ、生徒一人一人と音楽の楽しさ、美しさを学び豊かな心が育まれることを願いながら努力してまいりたいと思います。

第66回

定期演奏会のお知らせ

と き/平成25年11月17日(日)

10:00~17:00

ところ/仙台市若林区文化センター ホール

入場無料

どうぞ、お問い合わせしてお越しください。

幼稚園 母の会
会長 田中 美樹



親として子供達の成長に胸を熱くする瞬間があります。困っている友達にそっと手を差し伸べ、励まし、苦しんでいる誰かのために、今自分ができるとは何なのかと自問する姿を目にした時です。『感謝の心』を育む本園での集団生活を通して、相手を尊重し、相手の気持ちに寄り添う『真心』がしっかりと育っていることを実感する、本当に幸せな時間です。

佐取園長先生をはじめ、先生方の慈愛あふれる細やかな心配り、そしてたゆまぬ努力に親として敬服の念を抱くばかりです。先生方の教育を通して、子供達は他者を思いやる心をしっかりと学んでいます。これからの未来を担う子供達が幼少期にどれだけ心を豊かにできるか。それは、人生に幾度となく課される試練にも臆せず、怯まず、本当に大切なものを決して見失わない、尊い指針となることでしょう。

本園を思う時、「桃李言わざれども下自ずから蹊を成す」という史記の一節が浮かびます。あえて言葉にしなくても、受け継がれてきた伝統と確かな教育理念がたくさんの人の心を惹きつけて止まないからです。今日も慈しみの愛に包まれて子供達の笑顔が輝きます。

小・中学校 高等学校 父母教師会
会長 渡邊 裕介



聖ウルスラ学院英智として小・中、高等学校がスタートしてから、早いもので今年で9年目を迎えました。その間、「教育特区」の認定や「教育研究開発学校」としての指定を受け、国内でもあまり例の無い先駆的な取り組みを続けて参りました。先日は文教担当の国会議員の皆様や文部科学省のご担当の方々が本校の視察に見えられました。国レベルで、新しい教育の「在り方」を模索し始めた証ではないかと思われます。

小・中学校校舎移転新築という教育環境の整備も更に進みましたが、本校は現在、発展期にある学校が持つ共通の課題に直面しつつあります。キリスト教的人間観に基づく教育という本学院建学の伝統精神を鑑み、変化の激しいこの時代の教育課題をどの様に克服して行かか今の我々に求められているのではないのでしょうか。

また、今年5月には、小・中、高校そろっての初のPTA総会が終わりました。今年度から本校PTAは、従来の枠にとらわれることなく小・中、高の学院全体としての活動単位となっております。新体制での出発がつつがなく行えました事に改めて感謝を申し上げますと同時に、今後は更に活動内容を充実させるべく邁進して行きたいと考えておりますので、皆様方ますますのご協力をよろしくお願い申し上げます。

聖ウルスラ学院英智小・中学校 教育研究開発学校(教育課程特例校)

第9回 「英智公開研究会」(実施要項案)

8月23日現在

◎研究主題: 言語技術がもたらす論理的思考力と表現力の育成
——言語技術を習得し創造的思考力と課題解決能力を育成する——



- ◎日 時: 平成25年11月30日(土) 9:00~16:30 (受付 8:30~)
◎会 場: 聖ウルスラ学院英智小・中学校 一本杉キャンパス3号館
◎主 催: 聖ウルスラ学院英智小・中学校
◎後 援: 宮城県・宮城県教育委員会・仙台市教育委員会(予定)
◎参 加 費: 一般/1,000円(資料代を含む) 学生/無料 <別途ご希望により、お弁当・お茶 計1,000円を申し受けます>

当日のスケジュール

受付 8:30~	オープニング セレモニー 9:00~9:25 (講堂)	提案授業① 9:30~10:20 (普通教室)	提案授業② 10:30~11:20 (普通教室)	分科会① 11:30~12:30 (普通教室)	昼食 12:30~13:20	分科会② 13:30~14:20 (普通教室)	全体会・鼎談/総括 14:30~16:20 (講堂)	閉会 16:20 (講堂)
-------------	--------------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	-------------------	-------------------------------	----------------------------------	---------------------

講師・ 指導助言者	文部科学省大臣官房審議官(高等教育局担当)	常 盤 豊 氏	京都光華女子大学 副学長	加 藤 明 氏
	文部科学省高等教育局企画官	合 田 哲 雄 氏	上智大学外国語学部 教授	和 泉 伸 一 氏
	国立教育政策研究所 統括研究官	千々布 敏 弥 氏	宮城教育大学 教授	松 岡 尚 敏 氏
	つくば言語技術教育研究所 所長	三 森 ゆりか 氏	聖ウルスラ学院英智小・中学校指導主事	氷 室 眞 也
	宮城教育大学 学長	見 上 一 幸 氏	前中央教育審議会副会長/本学院理事長	梶 田 叡 一 他

提案授業① 9:30 ~ 10:20 (各教室)			
教 科	学 年・指 導 者	単 元	教 室
英 語	1年A組 笹森 宣子	What do you see?	英 語 室
社会(ESD)	3年B組 佐藤 健	食生活とゴミのゆくえ	3-B 教室
理 科	5年A組 佐藤 雄一	電流がうみ出す力	5-A 教室
国 語	6年B組 渡部久美子	ヒロシマのうた	6-B 教室
数 学	7年C組 福士 敏明	空間図形	7-C 教室

(ESD Education for Sustainable Development:持続発展教育/ユネスコスクール)

提案授業② 10:30~11:20 (各教室)			
教 科	学 年・指 導 者	単 元	教 室
英 語	Type1 8年1組 佐々木真由美	Writing paragraphs	T1-8-1教室
言語技術	7年 Bグレード 佐々木彩香	人参	7-B 教室
社 会	Type2 8年1組 喜古 康	日本地図	T2-8-1教室
国 語	Type1高1年2組 熊谷 厚志	評論文の読解	T2-9-1教室

授業公開のご参観のみでも、途中からのご参加でもかまいません。
ご参加をお待ちいたしております。

【参加申込方法】

※ご参加には事前のお申し込みが必要です

(1) 本学院ホームページ
お知らせ部分から申込用紙をダウンロード
していただき、必要事項を入力の上、添付
ファイルとして次に送信して下さい。

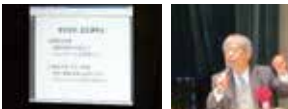
ursula@st-ursula.ac.jp

(2) ファックス

上記ホームページより申込用紙をプリント
アウトし、必要事項をご記入の上、FAXで
次に送信して下さい。

FAX.022(286)6334

☆ご不明の点は、ご遠慮なくお問い合わせ
下さい。TEL.022(286)6461
担当/金澤・鹿野・杉山



平成26年度 園児・児童・生徒募集要項の概要

校 種	募集定員	出願日/出願期間	試験日	試験内容	合格発表	体験入園/オープンスクール等
幼稚園	3年保育/男女 60名 2年保育/男女 35名 1年保育/若干名	11月1日(金)	※詳しくは要項・願書をご覧ください 要項・願書配布期間……10月1日(火)～10月31日(木)			〈公開保育〉10月4日(金) 〈体験入園〉10月12日(土)
小・中学校 文部科学省 指定 教育課程 特例校 研究開発学校	小学校課程 新1年生 (F1年生)	前期 後期	10月22日(火)～ 11月1日(金) 11月18日(月)～ 12月2日(月)	11月9日(土) 12月7日(土)	運動面・知能面・ 生活面の検査 面接(本人と保護者)	11月11日(月) 12月9日(月)
	男女 60名	前期 後期	推薦 奨学生 一般 12月2日(月)～ 12月10日(火) 1月4日(土)～ 1月11日(土)	1月7日(火) 1月15日(水)	面接(本人と保護者) 学力検査(国語・算数) 面接(本人と保護者) 学力検査(国語・算数 ・社会・理科)	1月8日(水) 1月16日(木)
	中学校課程 新1年生 (S7年生)					
	男女 70名					
高等学校	特別志学コース 〈Type1〉 男女 40名	奨学生推薦 一般 (含 奨学生・専願)	1月4日(土)～ 1月11日(土) 1月4日(土)～ 1月17日(金)	1月15日(水) A日程/1月29日(水) B日程/1月31日(金)	作文、面接(本人と保護者) ※出願条件に規定あり 学力試験(国語・数学・英語) 面接(本人のみ)	1月16日(木) 2月5日(水)
	特別志学コース 〈Type2〉 男女 60名	奨学生推薦 一般 (含 奨学生・専願)	1月4日(土)～ 1月11日(土) 1月4日(土)～ 1月17日(金)	1月15日(水) A日程/1月29日(水) B日程/1月31日(金)	作文、面接(本人と保護者) ※出願条件に規定あり 学力試験(国語・数学・英語) 面接(本人のみ)	1月16日(木) 2月5日(水)
	尚志コース 140名 ※男子:奨学生推薦10名、他	奨学生推薦 推薦 AO (自己推薦) 一般 (含 奨学生・専願)	1月4日(土)～ 1月11日(土) 1月4日(土)～ 1月17日(金)	1月15日(水) A日程/1月29日(水) B日程/1月31日(金)	面接(本人と保護者) ※出願条件に規定あり 面接(本人のみの個人面接) 作文 面接(本人のみの個人面接) 学力試験(国語・数学・英語) 面接(本人のみ)	1月16日(木) 2月5日(水)

☆高等学校：一般入試において男子も尚志コースへスライド合格判定をしています。

ただし、尚志コースに從來から設置しております1年次の大学進学選抜クラスに所属できる力が認められることを基準に男子の尚志コーススライド合格を総合判定します。

幼稚園のスクールバス

＜主な運行路線＞

聖ウルスラ学院英智幼稚園

※平成25年度 9月1日現在

小・中学校/高等学校のスクールバス

遠方より通学する小・中・高校の児童・生徒の安全と便宜を図るため各方面に朝と帰りにスクールバスを運行しています。

＜運行コース＞

- Aコース…鶴ヶ谷・沖野方面
- Bコース…泉・高森直行使
- Cコース…岩切・宮町方面
- Dコース…大野田・西多賀方面
- Eコース…名取・ゆりが丘方面
- Fコース…泉中央方面

※平成25年度 9月1日現在

※この運行コースは平成25年度のもので、ルートや停車場も次年度以降は変更される場合があります。
※各コースとも定員となった場合は、低学年優先となります。



学校法人 聖ウルスラ学院

聖ウルスラ学院英智

幼稚園

〒984-0047 仙台市若林区木ノ下1丁目25番25号
TEL.022-293-4024 FAX.022-293-4014

小・中学校

〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号
TEL.022-286-6461(代) FAX.022-286-6431

高等学校

〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号
TEL.022-286-3557(代) FAX.022-286-7279

法人事務局

〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号
TEL.022-286-5935 FAX.022-286-6334

<http://www.st-ursula.ac.jp/>



【編集委員】委員長/高橋 直見(法人事務局長) 幼稚園/庄子 美和 小・中学校/結城 みや・田村 奈緒子 高等学校/内池 千恵子・白井 昭子

【編集事務局】今野 正則(法人事務局次長)

【印刷】株式会社アド東北プロ